



## 二国間国際会議

参議院は毎年、列国議会同盟（I P U）、アジア・太平洋議員フォーラム（A P P F）等多くの議員間国際会議に代表団を派遣しています。その中でも、二国（又は地域）間で行われる国際会議においては、政治、経済、社会問題等に関して継続的に踏み込んだ議論が行われています。会議によって成立の経緯、意義等は様々ですが、以下参議院との間で定期的に行われている二国（又は地域）間会議を紹介いたします。

最も歴史の長いものとしては、日本・E U議員会議が挙げられます。昭和52年10月、ジェンキンス欧州共同体（E C）委員会委員長より保利茂衆議院議長に対し、欧州議会との定期会議の開催が提案されると、翌昭和53年7月、日本国会はルクセンブルクで開催された第1回日本・E C議員会議に衆参両院議員を派遣しました。以来、原則的に毎年1回日欧交互に会議を開催しています。当初は、討論は日本とE Cの貿易不均衡問題に集中していましたが、最近では経済・貿易問題だけではなく、政治・安全保障問題、環境及び科学技術協力等多岐にわたって議論が行われています。平成25年2月に東京で開催された第34回日本・E U議員会議においては、日E U首脳会談に先立って日E U経済連携協定（E P A）交渉等について議論が行われました。欧州議会がE U理事会に対し、E P A締結について最終的に承認権を有していることを考慮すると、同議会議員団との協議は、今後の日E U・E P A締結に向けて大きな意味を持つと考えられます。

中国との関係では、衆参両院がそれぞれ全国人民代表大会（全人代）と定期交流を行っています。平成18年10月、訪中した扇千景参議院議長は呉邦国全人代常務委員会委員長と共に「定期交流メカニズム創設に関する覚書」に署名し、翌平成19年3月、参議院は全人代代表団を東京に招待し、第1回日中議員会議を開催しました。以来、会議は日中交互に行われ、最近では平成24年3月に東京において第5回会議が開催されています。日中議員会議は、政治・安全保障、経済協力、環境及び人的交流等について幅広く議論が行われており、両国の政府間関係とはある程度切り離されたパイプの一つとして、重要な役割を果たすことが期待されています。

米国との関係においても、平成18年6月、米国上院が日米議会間の定期会議の開催を提案したことを契機として、平成20年6月、日本国会は米国のワシントンDCで開催された第1回日本・米国議員会議に衆参両院議員を派遣しました。最近では平成24年4月に同じくワシントンDCで第3回会議が開催されています。日米議会間においては、以前より議員連盟、NGO主催議員会議等による交流が活発に行われていますが、公的な議員会議が定期的に開始されたことで、議会間の関係強化に貢献してきました。

以上の他にも、各国議会より日本国会との定期的な国際会議開催の提案がなされることがあります。最近の例では、メキシコ上院アジア太平洋外交委員会委員長から参議院に対し、日本・メキシコ議会間定期交流に関する提案がありました。新たな二国間国際会議が開催されるのか、今後の動向が注目されます。

ほおじろ のぶゆき  
(喰代 伸之・国際部国際会議課)